

私が目指す社会ビジョン

2024年4月

Non-Profit Consultant 五十嵐 航

私の目指すべき社会ビジョンを紹介します。私は前職(公益財団法人パブリックリソース財団)で非営利団体の中間支援を行う中で痛感したことがあります。それは世の中には無数の社会課題が山積し、多くの社会的弱者が存在していること。そしてそのような行政の支援が行き届かない社会の影の部分で NPO から非営利団体が、必死にカバーして社会が成り立っているという現実です。そのような非営利団体による活動は、社会を持続させるために不可欠な存在ですが、残念ながら国民一般的に知名度が低く、彼らには資金支援が届きにくい状況となっています。

目指すゴールとして「誰ひとり取り残されない社会」はもちろん理想の姿ですが、今はそのフェーズにありません。私が目指すのは、その一歩手前の目標として、国民誰もが非営利団体の活動を知り、社会を維持するためにみんなの応援が必要なんだという気持ちを共通認識として醸成できる社会をつくることです。非営利分野への支援行為は、今はまだ意識が高い人だけが協力するものとか、お金に余裕がある人だけが寄付するものという風潮があります。このようなハードルを取り払い、まずは国民が知り、自分なりのアクションをすることから社会が変わるものだと思っています。

そのためにはまず、非営利団体の活動理由や背景をかみ砕いて、国民に分かりやすく発信するウェブや SNS の力が必要です。そこで国民に社会課題の所在を知ってもらい、非営利団体がそこにどうコミットしているのかを理解してもらうことで共感を集めたら、次はアクションしてもらう必要があります。具体的には、団体の会員になる、寄付をする、ボランティアとして関わる、など様々なアクションの方法があると思います。お金や時間がない学生などは、SNS で情報をシェアするだけでも立派なアクションになると思います。どんな形であれ、自分が興味のある社会課題が何であるかを自認し、アクションしたいと思うことが大事だと思っています。そして、それを誰もが簡単にできるように、環境や体制を整えることが私の役割だと考えています。

このように、国民が社会課題を知り、アクションすることが広がれば、社会的にムーブメントが生まれて、メディアが動き、さらに共感者が増え、世論を形成することで、結果的に行政が動き、公的支援制度の改善(社会変革)につながるものと思っています。

最後に、私は行政機関で長く勤めてきたので、その内部事情がよく分かります。行政による公的支援制度を変えることができるのは、行政内部のリーダーや優秀な官僚ではありません。人気のある国会議員でもなければ、政務大臣でもありません。優良な NPO のアドボカシーでもロビーイング活動でもありません。社会を変えることができるのは、最終的に「世論の形成」でしかないのです。そのためのファーストステップが私の目指す社会ビジョン「国民誰もが社会課題を知り、アクションできる社会」の構築です。そのビジョンの実現に向けて、私はこの度、自分なりのやり方で非営利団体を伴走支援していくことを決断しました。ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

以上